



各産業で活躍する若手 11 人がステージで熱弁

柳川の若っかもんの主張

～がまだしもんのチャレンジ～

～小さな地域還元～

たくさんの人の協力で店を持てた。地元の学校で生徒たちへパン作りを教えたり、食物アレルギーの子どもでも食べることができるパン作りをしたりしながら、子どもたちを笑顔にしたい。



パン工房 麦麦 店長 松本 宗晴 さん

～今の若っか百姓ががんばらんと～

4 年前に家業の農家を継いだ。青年部は若い百姓の集まりだが、年々減少している。農業は魅力ある職業。若っかもんががんばらないと。自分たちが栽培した農作物は安全。日本の食材は我々が守る。



JA 柳川 青年部長 新谷 龍也 さん

～食と農の懸け橋になりたい～

柳川は県内でも農産物の一大産地だが、そのことがあまり知られていない。安心安全な農産物や規格外の農産物を使った加工品作りに挑戦している。食と農の距離が少しでも縮まるよう展開していく。

JA 柳川 営農企画課 福田 恵介 さん

～有明海の過去、現在、未来～

有明海は多種多様な魚介類が豊富だったが今は激減。アサリの収穫は最盛期の 3% だ。有明海の復活、再生にあまり時間が残されていない。子どもたちの将来のために多くの人が行動する必要がある。



福岡県魚市場 (株) 筑後中部魚市場 総務課 西山 和寿 さん

～こうしたいな 柳川の観光～

観光地として主要な道路沿いの電線を地下埋設に。パワースポットなどの発信や水辺を歩ける花いっぱい掘割コースの新設など季節ごとに新しい取り組みを。近隣地域との広域連携が観光には必要だ。



旅館 白柳荘 支配人 富安 信一郎 さん

～海苔のまちを目指して～

のりの売り上げが 100 億円ある柳川に直売所がないので、将来直売所を造りたい。自分が若いころにノリ養殖の師匠と呼べる人と出会って考え方が変わった。若手は、先輩からたくさん学んでほしい。



福岡県有明海区研究連合会 顧問 古賀 祐哲 さん

～左官職人の育成を通して見えてくるもの～

左官の高齢化が進んでいるため、左官の会社を作った。仕事は市外がほとんどだが、柳川を PR でき、柳川で雇用も生まれる。柳川は人づくりには最高の環境。「若っかもんを育てるまち・柳川」にすることが必要だ。



(株) バウビオジャパン代表取締役 山川 秀徳 さん

～知ってもらいたい海苔のこと～



福岡県有明海区研究連合会 会長 堤 大輔 さん

全国で採れるノリの半分は有明海産。福岡県は全国 2 位で、柳川市はその 8 割を収穫する「ノリのまち」。だが市外では認知度が低い。ノリ業者の PR も大事だが、贈答用などに使ってもらえると PR につながる。

～ 10 年前の分岐点～



JA 柳川 青年部昭代支部長 梶島 福博 さん

10 年前に会社を退社して家業の農業を継いだ。退職して 6 年ほどは全力疾走。まわりの先輩たちの助言や激励のおかげで今がある。利益の追求では人は育たない。ものづくりの原点は人づくりだ。

～観光地柳川の魅力について～

観光客のために西鉄柳川駅のホームの階段に柳川弁のパネルを設置。将来は柳川弁講座を開きたい。私たちは観光客と観光地、柳川をつなぐパイプ役。心に残る柳川の思い出を持ち帰ってもらいたい。



西日本鉄道 (株) 旅客サービス課 原 英治 さん

～柳川のいいところ教えます～

柳川のまちの良さが伝えられるお店を持ちたいと思い、コーヒー店を開業。柳川にまた行きたい、行ってみたいと思ってもらえるようなお土産品などを増やして、柳川の魅力を発信する店にしたい。



ムトー商店 武藤 素子 さん



福岡のりをご飯と一緒に食べる蒲池小学校の児童

香りよし、味よし、口どけ良しの新のりに舌鼓

おいしい新のりを子どもたちに食べてもらおうと、海苔の日の 2 月 6 日、県有明海海苔共販漁業協同組合連合会 (黒田忠記会長) が全小学校 19 校に有明海で採れた新のりの福岡のりを寄贈しました。のりは各校合わせて約 4000 袋を提供。蒲池小学校と中島小学校で、同日、ノリ生産者の代表らと試食会を開きました。蒲池小学校では、黒田会長や各漁協の代表理事組合長らが出席。黒田会長らは「福岡のりは香りよし、味よし、口どけ良しの三拍子そろったおいしいのりですよ」などと紹介し、児童と一緒に新のりと給食を堪能。児童は「のりをご飯に巻いて食べました。いつもより給食がおいしく感じました」と笑顔で感想を述べました。



おいでメッセ柳川へ納入する業者と意見を交わした

おいでメッセ柳川意見交換会を開催

昨年 12 月 3 日にオープンした柳川ブランドショップ「おいでメッセ柳川」。その意見交換会が 2 月 10 日、ランヴィエール勝島で行われました。意見交換会には、柳川ブランド認定品や地元物産など約 150 商品を、おいでメッセ柳川に納める納入業者など約 50 人が出席。内田孝彦店長が、2 か月間の売り上げ金額や売れている商品などについて報告がありました。

また、意見交換会の後に行われた交流会では、柳川ブランド推進協議会が昨年行った「うまかもんつくりぐっちょ 2」の表彰式がありました。最優秀商品には「パン工房 麦麦」の柳川らすく (きなこ) が選ばれ、店長の松本宗晴さんに賞状が贈られました。